

就任にあたって

水産研究課長 船越 進

このたび水産研究課長に就任しました、船越進と申します。どうかよろしくお願いいたします。

入庁以来今年で 34 年目、こちらへは水産試験場・水産研究所・水産研究課とその都度名前は変わってはいますが、通算 6 年目となります。

最初お世話になったのは、平成2年～3年、当時の水産試験場の「鳴門分場」、平成4年～5年が当時「本場」と呼ばれていた美波庁舎でした。

私は、今でも「鳴門分場」とか「本場」という言い方をしてしまうことがあります。

その頃、「鳴門わかめ」はもちろん、海洋観測、赤潮調査などの基礎的な研究からアユ・アワビなども研究しておりました。

当時はそのような意識は持ってはいませんでした、現在の本県のブランド水産物とされているものです。

ワカメをはじめ、ハモ、アユ、アワビなどが本県のトップブランドとして消費者の方に知られているのは、漁師さんの努力はもちろん、水産研究課の地道な研究の成果でもあると思います。

次が平成24年に美波庁舎で1年間、そして今回ということになります。

さて、本県の漁業を取り巻く環境は課題山積で非常に厳しいと言われて久しいです。

こんな中、水産研究課では「美波庁舎」の機能強化、徳大との連携などで、マリンサイエンスゾーンを構築し、研究を進めようとする新たな動きがあります。

このような動きの中で、すでに成果が見えている「鳴門わかめ」の新品種に代表される新たな藻類用類養殖の技術開発、新たな工法による藻場造成、アジアカエビなどの新ブランド品目の創出、など漁業者の支えになるような研究を行い、そしてその成果を水産振興課・農山漁村振興課とも協力しながら徳島県の「漁業新時代」の構築に繋がたいと思っております。



写真 1. 平成 28 年度中の竣工に向けて改築が進む水産研究課美波庁舎